

## 令和5年度PTA活動振興功労者表彰被表彰者一覧

【小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校、私立幼稚園・認定こども園PTA】

(都道府県順)

No	都道府県	氏名	主要PTA経歴	主な功績
1	北海道	きくかわ てっぺい	北海道PTA連合会	北海道内の少子化の影響により、会員数が毎年のように約5千人ずつ減少し、会の運営や活動の基盤となる会費収入が減少しているなか、会則を見直すなどして、会員が参加しやすく、持続可能な運営となるための取組に着手した。また、役員や各地区PTA連合会から参加している理事、子育て委員等に対して、PTA活動の重要性や楽しさを伝えるべく、委員会への積極的な参加を働きかけたほか、役員にタブレット端末を配付してオンラインでの参加も可能とするなど、役員の負担軽減にも努めた。加えて、北海道PTA連合会の会長として、日本PTA全国協議会や札幌市PTA協議会、北海道教育委員会をはじめとする各種関係機関との連絡を密にとり、連携を深めた。
		菊川 哲平	会長	
2	北海道	はぎさわ のりみち	北海道PTA連合会	北海道内の少子化の進行等の関係から、会員数が毎年のように約5千人ずつ減少し、会の運営や活動の基盤となる会費収入が減少してきている中で、本会の正常な運営及び活動を保障するため、安全互助会の引受会社の変更をはじめとする、会計処理の在り方の大幅な見直し等を行い、予算確保に努めた。また、PTA活動の重要性や楽しさを役員や各地区PTA連合会から来ている理事、子育て委員等に伝えるべく、委員会活動への参加を呼びかけるなど、会長としての職務を遂行した。
		萩澤 教達	前会長	
3	北海道	つちだ おさむ	札幌市PTA協議会	平成23年から10年間にわたり単位PTA会長、区PTA連合会会長、札幌市PTA協議会会長としてPTA組織の充実と発展に努めてきた。そのことは、PTAの枠にとどまらず、その間に努めた数々の関連団体における取組を通して、我が国の社会教育の発展や充実にも貢献している。特に、退任までの3年間は日本PTA全国協議会の要職も務めたほか、令和3年には文部科学省生徒指導提要に関する協力者会議の委員として子どもの健全育成にも尽力している。
		土田 修	前会長	
4	北海道	おおこし まさゆき	北海道私立幼稚園PTA連合会	令和元年6月より北海道私立幼稚園PTA連合会会長に就任し、組織の要となる委員会活動に対し積極的な働きかけを行い、PTA連合会組織の基盤強化や運営の活性化に努めた。また、令和元年7月より全日本私立幼稚園PTA連合会副会長に就任し、北海道のみならず全国のPTA活動並びに次代を担う子どもたちの、健やかな成長のための活動推進に寄与した。特に広報誌では、幼児期に読み聞かせたい人気の絵本紹介やコロナ禍における家庭での感染予防、各園のPTA活動等の紹介等により、各家庭や園で役に立つ子育て情報を提供するなど、少子化が進行するなかで、活動への興味・関心や理解を深めるための魅力あるPTA活動の浸透に尽力した。幼稚園児の現役保護者として保護者目線の考えを大切にしながら、熱い想いで組織の先頭に立ってPTA活動の振興発展に寄与した功績は顕著である。
		大越 誠之	会長	
5	青森県	とのさき こうじ	青森県PTA連合会	県PTA連合会の役職を務めていた時期は、いじめやネット被害の未然防止、交通災害や震災被害の未然防止に向けた対応が喫緊の課題であったが、これまでの豊富な経験をいかんなく発揮して理事の意見をまとめ、課題解決に努めてきた。また、募金活動、児童の安全確保等に関して具体的な活動を行うなど、多岐にわたる分野において積極的に活動を行ってきた。さらに、財政運営の健全化は、温厚かつ粘り強い性格の同氏であるからこそ進められたことである。また、会長就任中に開催された県PTA研究大会(西北、弘前、八戸の各大会)では、大会実行委員長として組織の先頭に立ち、精力的に取組んだことで、参加者に多くの感動を与え、大会成功に導いた功績は多大である。
		外崎 浩司	前会長	
6	青森県	ふくし もとこ	青森県特別支援学校PTA連合会	県立森田養護学校のPTA活動では、地域の多くの団体の理解・協力を得て、地域に根ざしたPTA活動を広く、確実に展開している。また、小学校や特別支援学校のPTA活動から得た幅広い知識と経験を生かし、各特別支援学校の要望を取りまとめ、県や教育委員会との中継ぎ役に徹した。明るく朗らかな人柄で、一母親としての視点や思いを大事にしながら、障害を有する子どもたちに寄り添う姿は、児童生徒やその保護者、また教職員の励みになったと言える。また、ご子息が養護学校高等部卒業後も、後任育成のため青森県特別支援学校PTA連合会の顧問を務め、現在に至っている。
		福士 素子	前会長	
7	岩手県	たぐち あきたか	一般社団法人岩手県PTA連合会	岩手県PTA連合会の会長・副会長として、常に子どもたちの幸せを願いながら、様々な場面で会員の意識の向上を図ったり研修等の参加意欲を喚起したりするとともに、会員が楽しくPTA活動を行えるようにという思いを、様々な会議や研修等で提案してきた。楽しく充実した意義のあるPTA活動の情報を、マスコミ等も巻き込んで県内に広く発信するなど、これまでになかったアイデアを出しながら、本県PTAのリーダーとしてその力を発揮した。
		田口 昭隆	前会長	
8	岩手県	いわだて ともこ	一般社団法人岩手県PTA連合会	岩手県PTA連合会の会長・副会長として、常に現状に対して高い問題意識を持ちながら活動を見直し、前例にとられない創造的な活動で組織を牽引した。アイデアが豊富であり、今会員が何を学びたいと考えているのかという会員のニーズの把握に努めながら、そのニーズに応えるような内容の研修を企画・実行したり、各地域で実施する研修会の講師を紹介したりするなど、本県PTAのリーダーとしてその力を発揮した。
		岩館 智子	会長	
9	宮城県	すぎやま よしゆき	宮城県PTA連合会	9年間、宮城県PTA連合会の役員を務めた。専門委員会の総務財政委員会所属時は、規約・規程の見直しや健全な財政運営に力を注いだ。また調査広報委員会所属時は、率先して活動し、魅力ある会報「PTAみやぎ」の発行、そして誰もが親しみをもって見られるホームページの充実に取り組んだ。それらの実績は宮城県PTA連合会の発展に大きく寄与した。「第66回宮城県PTA研究大会石巻大会」では実行委員長を務め、その豊かな企画力と行動力で大会を成功裏に導いた。その結果、会員の資質の向上と会員相互の結束とがより深まった。
		杉山 昌行	元会長	
10	宮城県	すずき しんいち	宮城県PTA連合会	東日本大震災後のPTA活動において、被災地と支援者のパイプ役を担い、児童生徒の健全育成や教育環境の復旧・復興に尽力した。被災体験を基に地域と学校のあり方など、現在のコミュニティスクールや防災活動への普及及び推進に大きく寄与した。宮城県PTA連合会の監事として総務財政担当副会長として、貴重な提言や適切な指導・助言を行い、宮城県PTA連合会の健全な財政運営に力を発揮した功績は非常に大きい。
		鈴木 信一	元会長	
11	宮城県	しむら よういち	宮城県PTA連合会	宮城県教育委員会との意見交換会を開催するなどし、PTA会員としてのあるべき姿や心構え、そして児童生徒のより良い教育のあり方について、宮城県PTA連合会会長として県に提言し実践を推し進めてきた。このように行政とのパイプ作りに尽力しその功績は今後に活きるものとして極めて大きい。宮城県PTA連合会において、理事、副会長、会長、顧問を6年間、地区父母教師会連合会 会長を2年間、そして単位PTA会長を7年間歴任した。その間、「第70回宮城県PTA研究大会白石大会」を指導的立場で実施し多大なる成果を収めた。それらの実績は、宮城県PTA連合会や地区PTA更には単位PTAの発展に大きく寄与した。
		志村 洋一	元会長	

No	都道府県	氏名	主要PTA経歴	主な功績
12	宮城県	にしい ひでまさ	宮城教育大学附属小学校PTA	強いリーダーシップを発揮し、特にコロナ禍にあっても、「子供のためにできることをやろう」との合言葉を定め、各部署との連携を強化し、工夫した活動の実現に貢献した。保護者から不安の声も丁寧を受け止めるとともに、児童・保護者が安心して活動に参加できるよう感染症対策を強化したことは、各学年で実施する親子行事への参加者増にもつながった。また、小学校6年生のキャリア教育講師を務めるなど、児童の健全な育成に係る教育への貢献も大きい。
		西井 英正	元会長	
13	宮城県	いがらし ともひろ	日本PTA全国協議会	行動的で常に子どもや保護者のために、情報収集や情報提供に努め、地域を盛り上げてきた。東日本大震災後は東北ブロックのPTAにも呼びかけて松島を会場に「心のきずな防災交流事業」を日本PTAの教育支援基金を活用して開催した。その後は、日本PTAの参与を務め、現在もアドバイザーとして全国大会の運営のあり方やPTA組織の課題解決に向けて奔走しているところである。
		五十嵐 智浩	元副会長	
14	秋田県	かがや ひさと	秋田県PTA連合会	秋田県PTA連合会会長及び秋田市PTA連合会会長、さらには単位PTA会長として、長年にわたりPTA会員の先頭に立って組織を支え、PTA活動の中心となって活躍した。また、コロナ禍において対面での活動が縮小される中、会員同士の連携や情報共有、研究大会の開催など新型コロナウイルス感染症対策に配慮した取組を行い、これを実施した。アフターコロナを見据え、今後の組織の在り方の方向性を打ち出し、組織の整備・充実に取り組んだ。
		加賀屋 久人	会長	
15	秋田県	しみず たかあき	秋田県PTA連合会	秋田県PTA連合会副会長及び秋田市PTA連合会会長、さらには単位PTA会長として、長年にわたり各種PTA団体の役員として組織を支えるとともに、地域のPTA活動の中心となって運営に尽力した。特に、PTA会員に学習機会を充実させるために、行政との意見交換に熱心に取り組み、学校教育への理解を積極的に推進した。また、コロナ禍においては、PTA活動を停滞させないよう各種研修会をオンライン化して実施するなど、緊急時への対応を迅速に促進した。
		清水 隆成	副会長	
16	秋田県	たかはし ひさかず	秋田県立横手支援学校PTA	秋田県立横手支援学校PTA会長を6年間努め、その誠実な人柄と持ち前のリーダーシップからPTA会員の信頼も厚く、様々な活動においてPTA会員と連携しながらPTA活動の活性化に尽力した。また、日頃から防災への関心が高く、防災用品の備蓄や講演会等で得た防災に関する情報を役員会で提供するなど、児童生徒が安全・安心に学校生活を送ることができるよう支援に努めた。令和3年度には秋田県特別支援学校PTA連合会会長に就任し、組織の運営に尽力した。自校のPTAのみならず、秋田県特別支援学校全体に関わるPTA活動への功績は大きい。
		高橋 久和	会長	
17	山形県	あらい かん	山形県PTA連合会	「子供たちの笑顔のために」の理念を継承し、「学ぶPTA」「活動するPTA」の実現をめざし、足下を照らし現実を直視し課題を探り、今やらなければならないことを洞察して、新たな事業に結び付け、常に未来志向で事業を展開してこられた。その理念は、次代の山形県PTA連合会の活動に引き継がれている。日本PTA全国協議会理事に就任し、全国の実情を見極め、必要な事業の推進に努力され、公益法人としての安定した活動継続に尽力された功績は誠に大きい。
		荒井 寛	元会長	
18	山形県	すずき しんいち	山形県PTA連合会	第70回日本PTA全国研究大会山形大会を誘致した。PTAという組織を活用し、子供たちが安心して成長できる環境を創るためには、PTAそのものの活性化が重要であると考え全国大会の開催を決意した。全国大会を実施し、企画・運営などの共通体験を通してPTA会員同士がコミュニケーションをとり共に語り合い「志」を共有することで、山形県PTA連合会活動の活性化が図られ、子供たちの健やかな成長と親自身の成長に繋がるものと考え誘致したものである。その思いは次代の山形県PTA連合会に引き継がれ、第70回日本PTA全国研究大会山形大会の成功につながった。
		鈴木 真一	元会長	
19	福島県	なりさわ しょうぞう	福島県PTA連合会	福島県PTA連合会役員を2年、顧問を3年間務め、その間に残した功績は顕著である。会長職にある時にコロナ禍となり、全国的にその対応に苦慮する中、それを苦境と捉えず、福島県PTA連合会の会長としてリーダーシップを発揮してコロナ禍における現況に即したPTA活動の充実・発展に寄与した。同じく会長職にある中、台風被害による県大会の中止とコロナ禍による東北大会の中止と全ての研究大会が中止となったが、その中止の判断に至る対応をとおして、機会ある度に常に研修活動の重要性を会員に強く訴え、多くの会員の共感を集めるなど、コロナ禍における新しいPTA活動の在り方についての発信を続けた。
		成澤 勝蔵	元会長	
20	福島県	ほんだ のりたか	福島県PTA連合会	福島県PTA連合会の役員を3年、顧問を4年間務めた他、福島県高等学校PTA連合会の会長も務めるなど、小・中・高と全て校種において、単P及び連合体組織の会長職を務め、長きに及ぶPTA活動の充実・発展に寄与してきた功績は顕著である。日本PTA全国協議会や東北ブロックPTA協議会との連携にも意を用い、福島の実状の発信にも特段の思いをもって取り組み、原発視察や意見交換会などを開催するなどして、風評被害の払拭、復興事業の加速、復興の担い手となる児童生徒の育成などについて発信を続けた。
		菅田 憲孝	元会長	
21	福島県	あんど う みゆき	福島県立会津支援学校父母と教師の会	保護者としては8年間、PTA事務局として貢献し、そのうち5年間、会長を務めた。会長として、事務局運営及び会員への啓発に努め、その後顧問として、事務局主催の学習会講師としてPTA会員の理解啓発に多大な功績を残している。さらに、地域においては、子育て支援として、NPO法人ファミリー・サポート・あいづの運営にも携わり、多くの保護者の支援、地域における障がいのある幼児児童生徒の理解啓発と支援を行っている。
		安藤 美幸	元会長	
22	茨城県	やまもと ちから	茨城県PTA連絡協議会	平成25年度に鹿嶋市立大同西小学校PTA会長として携わって以来、鹿嶋市及び茨城県東地区PTA連絡協議会の会長、茨城県PTA連絡協議会の会長を歴任するなど、常にリーダーとしてPTA活動に積極的に取り組むとともに、様々な工夫をとおして効果的で効率的な事業の運営を目指した。また、会員の意識啓発にも尽力した。平成28年度に開催された日本PTA関東ブロック研究大会茨城大会では、大会準備委員、第6分科会実行委員長として、研究大会の円滑な運営に尽力し成果を上げた。平成30年度より、茨城県PTA連絡協議会会長に就任し、「楽しいPTA」を掲げ、組織運営の改善に力を注いだ。
		山本 主税	前会長	
23	茨城県	はたけやま よしき	茨城県PTA連絡協議会	茨城県PTA連絡協議会会長として、明確な目標と行程を示し、県PTA活動の活性化に努めた。また、茨城県教育委員会が設置する各種の協議会や委員会の推進委員、教育関係団体の理事や委員を務め、各種会議に積極的に参加し会員の意見を伝えるなど、茨城県の教育に大きく貢献してきた。特に、コロナ禍にあってPTA活動の停滞を懸念し、県PTA連絡協議会の活動に加えて、地区や市町村の活動の紹介、茨城県の教育行政の情報の提供など、できる限り会員への情報提供と共有に力を注いできた。
		畠山 佳樹	会長	

No	都道府県	氏名	主要PTA経歴	主な功績
24	群馬県	しみず あゆみ	群馬県PTA連合会	小中学校単位PTA会長、群馬県PTA連合会常任理事及び初代女性会長として、どの役職においても高い見識と指導力をもって、長い期間にわたり会の発展に寄与してきた。特に平成29年に開催された関東ブロック研究大会群馬大会では、第4分科会家庭教育の担当となり、協議の充実を図るなど、大会の成功に大きく貢献した。会長としても群馬県内の各種機関・団体の委員として保護者の代表として意見を述べるとともに、関東・全国の情報を県内に周知し、本県のPTAの活動発展に貢献した。
		清水 あゆみ	前会長	
25	群馬県	しとう つよし	群馬県PTA連合会	小中学校ともに単位PTA会長を務め、また群馬県PTA連合会常任理事・副会長及び会長として、どの役職においても高い見識と指導力をもって、会の発展に寄与してきた。令和3年度に開催された群馬県PTA大会伊勢崎大会では、実行委員長として大会全体の運営に関わり、コロナ禍においても内容の充実を図るなど、大会の成功に大きく貢献した。群馬県内の各種機関・団体の委員として保護者の代表として意見を述べるとともに、関東・全国の情報を県内に周知し、本県のPTAの活動発展に貢献した。
		市東 剛	会長	
26	埼玉県	あけの まさひさ	白岡市PTA連絡協議会	被表彰者は、白岡市のPTA活動において、時代の変化に合わせた活動の改善を主導して、児童・生徒及び保護者が安心して学校生活を送ることができる教育環境の整備に尽力してきた。また、自ら社会教育団体を立ち上げ、PTAや学校では対応が難しい教育環境にかかる課題の解決に向けた取組を主体的に進めてきた。
		明野 真久	常任委員	
27	埼玉県	さいとう しんご	埼玉県立大宮北特別支援学校PTA	持ち前の気さくで明るい人柄を生かし、本校PTAにおいても、埼玉県特別支援学校PTA連合会においても、会長等の役職に就く以前から、積極的に様々な会員に声をかけ、励まし、新たな提案を行い、PTA活動全体を活性化させる原動力となった。本校PTA会長に就任してからは、さらに自身の持つ人的ネットワークも生かし、地域の各種団体や個人と連携して、様々な新たな取組を企画・実施した。また、他校PTA会長らともこまめに連絡を取り合い、県内特別支援学校全体として対処すべき課題を明らかにし、埼玉県特別支援学校PTA連合会として、県に要望していく活動にも尽力した。
		齊藤 真吾	前会長	
28	埼玉県	みやざわ たかひと	さいたま市立蓮沼小学校PTA	16年という長きにわたり、会員及び役員としてPTA活動の振興に継続して尽力してきた。会長として12年間PTA活動を行う中で、学校はもとより地域やPTA会員の声に真摯に耳を傾け、課題解決に向けリーダーシップを発揮して組織運営の改善に資するとともに、保護者対象の各種研修会等の充実により、家庭の教育力向上に努めた。また、PTAと地域、関係機関が連携・協働し一丸となって子どもを守る仕組みを立ち上げ、様々な取組を通して児童の安全の確保に寄与した。さらに、PTA活動にとどまらず、地域の諸団体に所属し、子どもの健全育成のため献身的に取り組んできた。
		宮澤 隆仁	会長	
29	埼玉県	みぞぐち けいこ	さいたま市PTA協議会	さいたま市PTA協議会において様々な役員を歴任後、令和4年度からは会長として約9万人の会員の先頭に立ち、子どもたちの健全育成のためにPTA活動の振興に努めている。近年、学校では新たな教育活動が導入されていることから、教育委員会と連携した会員対象の研修の充実にも努め、新たなPTAのかかわりを模索している。また、オンラインと対面によるハイブリッドの会議や研修の導入等により、会員がいつでもどこからでも参加できる新たな環境整備に取り組んでいる。特に、昨年度は市PTA協議会会長として第77回指定都市PTA情報交換会さいたま市大会を主催し、全国の指定都市PTA会長等と実りある情報交換を行い、大成功を収めた。令和4年5月1日には、永年にわたり市政の振興発展に尽力し、その功績が特に顕著な方々に贈られる「さいたま市政功労賞」を受賞している。
		溝口 景子	会長	
30	千葉県	おおつか よしお	日本PTA関東ブロック協議会	千葉市PTA連絡協議会会長としては、社会全般でPTA活動への否定的な声が高まる中、PTA活動への理解を深めるための特別委員会を設け、積極的に活動を行った点は高く評価される。PTA活動の紹介動画やリーフレット類を作成した活動は、協議会内部の単位PTAのみならず、他県の協議会からの引き合いも数多く寄せられている。平成31年度(令和元年度)に開催される予定であった第51回日本PTA関東ブロック研究大会千葉市大会は、残念ながら台風の影響で中止となってしまったが、大会長として、運営組織をまとめるとともに、関東ブロック内の協議会との連携を深めるなど、リーダーシップを発揮して大いに尽力した。単位PTAの会長や副会長を長年務め、地域における子どもたちの健全育成と安全・安心な環境づくりに貢献してきた。
		大塚 義生	元会長	
31	千葉県	おかべ しげゆき	千葉県PTA連絡協議会	コロナ禍という先の見えない社会状況の中での会長職時代は、次から次への課題が押し寄せるような事態が多々見られた。そんな中、会長として常にゆったりと落ち着いた態度で迅速かつ誠意をもって課題解決にあたった。話し合いの場にあつては、何事に対しても穏やかで時宜を得た発言が見られ、会議を重ねる度に周囲からの信頼度も増していった。また日本PTA全国協議会や関東ブロック協議会で県の代表としての役割を十分に果たす一方、他県との調整役として重要な役目を担っていた。そんな県内外で多忙を極める中、20年ぶりとなる本協議会の創立70周年記念事業の中心的な存在として無事成功させた功績は、非常に大きい。
		岡部 成行	元会長	
32	千葉県	おおた のりこ	公益社団法人日本PTA全国協議会	千葉県PTA連絡協議会の会長就任直後から本協議会に山積されていた課題点を一手に引き受け、リーダーシップを発揮しながら勇往邁進してきた会長時代である。協議会の組織・会則・会計等の多分野で、スクラップアンドビルド的な発想をもって全体的な見直しと再構築を行った。こうした改革が必要とされる時期を、自らの発想と行動力によって乗り越えてきた功績は、非常に大きいと言える。また千葉県PTA連絡協議会の会長退任後は、日本PTA全国協議会の副会長や参与の役職を歴任し全国という舞台でも活躍した。
		大田 紀子	元副会長	
33	千葉県	はまづめ だいすけ	千葉県PTA連絡協議会	2年間という会長任期を通して、安定した組織づくりを目指しリーダーシップを発揮しながら諸々の課題に取り組んできた。柔軟な対応と高いコミュニケーション能力をもって、その都度、適切な方策を打ち出し課題解決してきた。特に印旛郡市PTA連絡協議会の会長も兼任し交通安全対策に積極的に取り組みながら、県の会長としても各地へと精力的に向き、多くのPTA会員の方々と意見交換してきた。更に日本PTA全国協議会においては、「調査研究推進委員」「組織課題検討委員」「広報企画編集会議委員」として活躍し、関東ブロック会長会議においても重要な役割を担ってきた。まさにいつでもどこでも力を発揮できる人材と言える。
		濱詰 大介	会長	
34	千葉県	みやした ひろし	船橋市PTA連合会	平成23年度から小・中学校PTAの副会長、会長を務め、また、平成24年度から船橋市PTA連合会の副会長、会長として、組織の先頭に立ち、PTA活動を盛り上げるとともに、会員の意識向上や活動の活性化に多くの成果をあげた。さらに、個人情報保護法改正の折には率先してマニュアルを作成し、各PTAの活動の一助となった。その他、PTA組織の構築についても新しい試みを実践し、その普及に努めた。未加入校への加入促進にも力を入れ、市内で子どもたちのために一丸となるべく活動した。
		宮下 博	元会長	
35	東京都	おおの かおり	鶴川第一小学校PTA	子どもたちのために保護者ができることを、積極的に楽しんで取り組んでいることが、第一に評価できる。PTAの会員・非会員の対応や、会費、役員・委員・係の選出方法について、これまでとは全く異なる方法を取り入れ、その取り組み情報を他校へ共有し、各校のよりよりPTA活動に貢献できていることも高く評価できる。また、町田市公立小学校PTA連絡協議会(通称:小P連)活動にも長年積極的に取り組んでおり、令和4年度からは小P連代表に就任し、PTA会長を初めて経験する方へアドバイスや様々な体験談を述べることで、会長職への不安払拭に貢献している。
		大野 薫里	会長	

No	都道府県	氏名	主要PTA経歴	主な功績
36	東京都	おかべ けんさく	一般社団法人東京都PTA協議会	協議会への参画後、組織のあり方や活動の意義に関する観点から、協議会の方向性について課題提起を続けてきています。2020年度は、会長に就任するとともに「つながれ！とうきょうPTA」プロジェクトをスタートし、単位PTAへの支援を活動の中心に据えて、様々な支援事業に取り組んでいる。単位PTAとともに、常にPTAのあり方を見直す視点を持ち、PTA活動の充実を目指しての様々な取組への工夫の功績は大きい。
		岡部 健作	会長	
37	東京都	いとう こういち	港区立白金小学校PTA	白金小学校を「日本一の学校」とするには、学校と生徒だけでなく、保護者が日本一である必要がある、と率先して、保護者との連携を密にし、時には保護者個人に会長として直接、協力・理解を求めるなど、PTAと保護者、学校との関係改善に、大きく貢献した。各校PTA会長及び各校長からの信頼も厚く、異例ともいえる3年連続してのPTA連合会会長を務めたことは、港区教育行政にも大きな貢献である。この3年間は感染症の影響もあり、それまでのようなPTA活動ができない中、P連会長としてリーダーシップを発揮し、保護者及び単位PTAからの声をまとめ、教育委員会に伝える重要な役割を果たしてきた。様々な制限がある中、児童の健全育成やPTA活動・学校教育の改革などに大きく貢献してきた功績は大きく、当人なくしては港区小学校・PTA連合会はこの難局を乗り越えることができなかった。
		伊藤 光一	会長	
38	東京都	ますだ みつこ	一般社団法人東京都PTA協議会	協議会への参画後、法人改革に伴う一般社団法人への移行にあたり、事務局長として申請業務等を担った。それ以降、任意団体ではない法人であることで、協議会の活動にもメリットとして生かされており、その貢献は大きい。また、協議会の広報担当を長く務めており「かわら版」や「広報紙」などの紙媒体発行から、HPの更新等にいたるまでの作業を、関係メンバーの中心となり推進した。協議会が活動方針を大きく変えたこの3年前以降、広報活動は今まで以上に重要なことであり、主担当としてその重責を担った功績は大きい。
		増田 光子	常務理事	
39	神奈川県	さくらい さとし	横須賀市PTA協議会	平成26年に会長に就任した時点で地域との連携や活動が人手不足から中止、廃止されていたが、「地域なくして子どもたちの健全な育成はできない」として、精力的に参加し続け、地域の中心的存在として現在まで積極的に活動を継続している。特に平成27年には、廃止されていた「おぎのっ子祭り」を復活させ、福島からサンマを取り寄せ福島復興チャリティーとしてサンマを焼いたり、子どもたちに復興とチャリティーの意味を学んでもらったり、学校と地域、保護者が力を合わせて復興支援をすることができた。その後も熊本復興支援のお祭りや、コロナ禍でイベントが中止となってしまった子どもたちのために「応援花火」を中学校のグラウンドから業者により打ち上げするなど、様々な活動を行った。そのほか横須賀市学力向上委員、社会教育委員、教育基本計画策定検討委員なども務め、教育環境の向上に注力している。
		櫻井 聡	会長	
40	神奈川県	よしざわ けいた	川崎市PTA連絡協議会	川崎市PTA連絡協議会会長に就任後、協議会内部では規定の整備や会計処理に関する改善・検討など多くの組織改善を手掛けるとともに、単位PTAに対しては各種コンテストの実施や研修の開催などにより、活動意欲の向上や知識醸成に寄与するなど、所属団体の内外を問わず、さまざまな活動に積極的に取り組んだ。行政に対しても、各会員の意見を反映した要望活動の実施により教育環境の改善に努めるなど、1年間の任期で多くの功績を残している。
		吉澤 慶太	元会長	
41	神奈川県	たち ゆうき	川崎市PTA連絡協議会	川崎市PTA連絡協議会の会長を4年間務め、教育委員会をはじめ関係する機関とも連携し協力体制を築くとともに、PTA活動の適正化や法令順守に役立つガイドラインを整備した。ガイドラインの整備にあたり、PTAの加入非加入に関わらず、子供たちを平等に扱う考え方や、活動に賛同しない人を無理やり入れることはかえって活動が難しくなるなど、PTA活動の基本となる「考え方」を整理して市内の単位PTAと共有することで、PTA活動が多くの人に賛同され、「入りたくなるPTA」になるような活動を進めるなど、多大な貢献をしている。また、「かわさき子どもの権利の日」や「二十歳を祝うつどい」など、教育委員会に関わる取組だけでなく、首長部局の事業にも協力し、本市の子ども施策に尽力した。
		館 勇紀	会長	
42	神奈川県	たまの しんえい	神奈川県PTA協議会	単位PTA会長時代から子どもたちに対する思いは強く、活動に反映させるだけでなく、組織を活性化することで様々な関係者を巻き込んで運営する実績が顕著で、その後の市P連会長、県PTA協議会会長時代まで継続してその思いを変えることなく、県PTA協議会では、相模原市の政令指定都市化に伴う脱会の局面でも仲間を巻き込んで困難に対処して成功してきた功績は大きい。また、県PTA協議会会長を終えた後も県PTA協議会安全互助会の組織が課題を多く抱えた際においても財務体質や組織の健全化に尽力し、実績を上げた功績についても県PTA協議会に与えた影響はとて大きい。その後もその経験値を生かして個人レベルにおいても地域の社会団体のトップとしても子どもたちのために尽力している。
		玉野 真永	元会長	
43	神奈川県	やまもと ゆうき	川崎市PTA連絡協議会	川崎市PTA連絡協議会会長に就任後、PTA活動に関するガイドライン作成の検討会立ち上げと作成への着手、各会長へのPTAのあり方に関する研修会の開催など、例年の内容にとらわれない柔軟な切り口から、市内のPTA活動全体に関する改善に積極的に取り組んだ。行政に対しても、独自のテーマに基づいた調査・研究を実施したうえで内容を集約した要望を行うことで、幅広い教育環境の改善に寄与するなど、会長としての活動の中で多くの功績を残している。
		山本 勇樹	元会長	
44	神奈川県	ますだ まいこ	神奈川県PTA協議会	小学校、中学校のPTA会長として、自校のPTA活動を推進しただけでなく、小田原市PTA連絡協議会、神奈川県PTA協議会の役員を長く務め、市内、県内のPTA活動の活性化に尽力された。特に小田原市PTA連絡協議会の運営に長く携わり、市内全小・中学校のPTAの緊密なネットワークを構築し、そのつながりを生かしてそれぞれの学校が抱える課題を共有し、その解決に向けて積極的に提言し、具体的な示唆や活動例を発信し続けた。お子さんの卒業により自校のPTAを退会した後も、小田原市PTA連絡協議会の事務局を担い、現在(令和5年3月31日)に至るまで長く継続して市内PTAの精神的な支柱としてその活動に積極的にに関わり、推進に貢献している。
		益田 麻衣子	元副会長	
45	神奈川県	こいずみ よしあき	相模原市PTA連絡協議会	相模原市の子どもたちとPTA会員のために情熱をもって様々な事業に取り組まれた。真摯に活動に取り組む姿勢に、役員・会員からの多大な信頼があり、コロナ禍等の活動が困難な状況が続く中でも、学校や教育委員会との連携を大切にしながら組織をまとめ、PTA活動を前進させた。また、PTAをめぐる今日的な課題が山積する中にもあっても、PTA大会等で時代に即したPTA活動を模索し、単位PTAとともに丁寧に取り組まれている。
		小泉 喜亮	会長	
46	新潟県	いたくら ひさのり	新潟県小中学校PTA連合会	平成25年より9年間に渡り、単位PTA、新発田市P連、新潟県P連の役員を務めた。その間、平成28年からは日本PTA全国研究大会新潟大会の総務部長に就任し、翌令和元年度からは2年間県P連会長として、全国及び新潟県のPTA活動にリーダーシップを発揮した。子どもや保護者を取り巻く多様な教育課題に常に高い関心を持ち、積極的に関わって情報収集を行った。大学の専門の教授を招聘し、多感な子どもたちとの接し方についての講演会を実施し、さらに広報紙で紹介するなどして、会員と情報共有する重要性を意識して行動していた。その温かい人柄と、子どもたちや会員たちの声を大切にし、チームワークによって課題解決を図ろうとする姿勢が信頼を集め、多方面から高い評価を得ている。
		板倉 久徳	前会長	
47	新潟県	おおた かずみ	新潟県小中学校PTA連合会	平成20年より14年間に渡り、単位PTA、上越市P連、県P連の役員を務めた。その間、新潟県部活動改革検討委員会委員として、「これからの部活動の在り方について」PTAの立場で協議に参画したり、新潟県いじめ問題対策連絡協議会委員として、県P連として具体的に取り組む内容を情報共有したりするなど、新潟県の諸施策に多大なる貢献をしてきた。また、保護者を取り巻く多様な教育課題に常に高い関心を持ち、積極的に関わって情報収集し、コロナ禍でも「学びを止めない」という強い思いにより、講演会や研修会の開催、協議会を設けての全役員による協議会を開催した。その誠実な人柄と強い行動力、リーダーシップのもと、コロナ禍にもかかわらず、正常なPTA活動を目指した諸取組に対して、PTA会員からの信頼感も厚く、高く評価できる。
		太田 一巳	会長	

No	都道府県	氏名	主要PTA経歴	主な功績
48	新潟県	こみ なおき	新潟市小中学校PTA連合会	平成30年実施の「日本PTA全国研究大会新潟大会」において、実施協議会副会長として会長を支え、参加者数約7,000人の研究大会を大成功に導いた。また、日本PTA関東ブロックでは3年間にわたりリーダーシップを発揮し、感謝状授与の対象となった。バランス感覚に優れ、公明正大な人柄により人事選考委員に任命させることも多い。実行力もあり、温厚で誰からも愛され頼りにされる人物である。
		小見 直樹	前会長	
49	新潟県	さとう くにえい	新潟市小中学校PTA連合会	新潟市小中学校PTA連合会では、従前の課題「PTAの存在意義を考える」から、「持続可能なPTAの在り方をみんなで見つけよう」と意識の転換を図っているが、規則や慣例からPTA活動を縛るのではなく、PTAのつながりが社会へのつながりの一歩であることを提唱し、リーダーシップを発揮する。特に、組織のスリム化やボランティア制度等についての様々な事例を示し検証する中で、それぞれのPTAがそれぞれの状況に応じた運営ができるような組織改編を提案し推進している。
		佐藤 邦栄	会長	
50	富山県	みずたに ちまお	富山県PTA連合会	富山県PTA連合会の会長として、常に組織の活性化を意識し、事業の充実・発展を見据えた業績に顕著なものがある。また、新型コロナウイルス感染症の拡大で中止となったが、令和2年8月に開催予定だった第68回日本PTA全国研究大会富山大会の準備委員会を立ち上げ、構想の策定や組織作りの基礎固めなど具体的な活動内容の具体化に努めた功績は大きい。また、保護者代表会長として、「富山県学力向上推進会議」「富山県教科用図書選定審議会」「青少年育成県民会議」とやま親学び推進協議会」等、多岐にわたる委員に就き多くの提言を行った。
		水谷 千万夫	元会長	
51	富山県	ほんごう まなぶ	富山県PTA連合会	富山県PTA連合会の会長として、常に組織の活性化を意識し、事業の充実や発展を見据えた業績に顕著なものがある。また、新型コロナウイルス感染症の拡大で中止となったが、令和2年8月に開催予定だった第68回日本PTA全国研究大会富山大会開催に向けて実行委員長として事前の準備を牽引した功績は大きい。また、日本PTA全国協議会では、副会長や特任理事を務め、全国や東海北陸ブロックばかりではなく、そのノウハウを生かして富山県のPTA活動の充実・発展に努めるとともに、パイプ役となってそれぞれのPTA組織との連携・強化に向けた活動を積極的に推進した。
		本江 学	元会長	
52	富山県	てらしま まさみね	富山県PTA連合会	富山県PTA連合会の会長として、本会をより身近に感じてもらうこと、会員相互の絆を深め組織間の連携を強化したいという願いをもち、常に組織の活性化を意識して、事業の充実・発展を見据えた運営にあたるなど、その功績は顕著である。また、保護者代表会長として、「富山県学力向上推進会議」「富山県教科用図書選定審議会」「青少年育成富山県民会議」とやま親学び推進協議会」等、多岐にわたる委員に就き多くの提言を行った。
		寺島 雅峰	前会長	
53	石川県	たなか なおや	石川県立錦城特別支援学校育友会	育友会会長として7年間、副会長を入れると通算8年間、育友会員に温かく声をかけ、「みんなが気軽に参加できる育友会」を目指して尽力した。母親の役員が多い中、父親の参加を呼びかけ家族での行事参加を促し、多くの育友会活動を企画・実施し、リードしてきた。また、多忙な中、全国各地に出向いて研修会に参加し、多くのPTA役員ともつながり、そこで得た新しい情報や防災の取組みについて発信したり、育友会の研修会に取入れられたことで、保護者の防災意識が高まり、防災への理解が深まった。コロナ禍では、感染対策を行いながらできる育友会活動や行事を検討し、教職員と協力して行った。保護者や教職員からの人望も厚く、育友会会長の退任後も学校評議員として本校の教育活動に寄与している。
		田中 直也	前会長	
54	石川県	かわもと さゆり	石川県立明和特別支援学校PTA	長年に渡り、PTA役員としてPTA活動を企画、運営し、本校PTA活動を盛り上げるために尽力してきた。子ども達がどうしたら楽しめるか、保護者がどうしたらPTA活動に参加できるかを考えながら活動する姿勢はPTA活動の活性化の一助となった。また、書記、副会長、会長と様々な役を引き受けるとともに、PTA活動のマニュアルを作成することに注力するなど、新しい役員に仕事内容の引継ぎを行いながら、スムーズなPTA運営に尽力された。
		河本 さゆり	前会長	
55	福井県	うさみ よしかず	福井県PTA連合会	10年間にわたり、単位PTA、市P連、県P連等の役員として、様々なPTA活動に積極的に関わり、献身的に活動を行い会の発展と活性化に大きく貢献した。福井県P連会長時には、県P連事業内容及び運営状況、常置委員会の業務等の改善を検討し、各郡市P連選出理事の削減、常置委員会の再編、会員負担金の改定等、組織の運営改善をすすめた。
		宇佐美 嘉一	元会長	
56	福井県	さの ひろし	福井県PTA連合会	所属の単位PTA、福井市PTA連合会、福井県PTA連合会のそれぞれにおいて、会長や常任理事の要職を務めるなど様々なPTA活動に積極的に関わり、建設的な提案を活動に活かし、それぞれのPTAの発展と活性化に貢献してきた。また、地域での社会教育のリーダー的存在で、多くの地域団体とつながりあって、よりよい教育環境、コミュニティーづくりに献身的に関わっている。福井県P連会長として、新型コロナ感染症対策学習会、リモート会議の推進、HPでの情報発信等、運営改善に取組み成果を上げている。
		佐野 弘	前会長	
57	山梨県	さの まこと	山梨県PTA協議会	山梨県PTA協議会会長や甲府市小中学校PTA連合会会長などを歴任し、長期にわたってPTA活動に貢献するとともに、県PTA大会では、他の役員と分担・協力することで、スムーズな運営に努め、成果を上げた。また、山梨県PTA親子安全会・扶助会の会長を務めた際には、見舞金の公平公正で正確な給付に努めるとともに、少子化が進む中において会計の適正化を強く意識し、見舞金給付規程の見直しを進め、持続可能な制度となる道筋を立てた功績は大きい。
		佐野 誠	元会長	
58	山梨県	いしはら はつえ	山梨県PTA協議会	山梨県PTA協議会において、母親代表や母親委員会委員長の役職を歴任し、県PTA会長としても二人目の女性会長としてPTA会員の母親学習会を充実・拡大するとともに、情報を広く発信するなど、女性活躍の大きな推進役となった。また、関係機関と連携して安全対策の充実にも努めた。さらには、令和4年度の「関東ブロック研究大会 山梨大会」の開催にあたり、実行委員会を立ち上げ、実行委員会では、大会の趣旨や日程・会場の決定など、大会開催へのロードマップの作成に尽力した。
		石原 初江	元会長	
59	長野県	ちの たかふみ	長野県PTA連合会	PTA活動の振興に幅広く取り組み、顕著な功績を残した。とりわけ、家庭と地域におけるネットリテラシー教育の向上に熱意を持って尽力した。また、学級内の教育力向上と信頼関係の構築を重要視し、学級懇談会の活性化を促した。他方、単年度で人員が交代するPTAにおいて、活動の意義や運営方法の伝わりにくさを課題と捉え、手引書の内容を向上させて単位PTAの活動を支援した。また、構成する郡市PTAの財政事情を反映させて、長野県PTA連合会の事業及び運営の改革を実行した。その後、改革に付随する制度と規則の整備に取り組み全うした。以て、長野県内のPTAが持続可能な体制へと転換を図る中心的な役割を担った。
		千野 貴文	元会長	

No	都道府県	氏名	主要PTA経歴	主な功績
60	長野県	おおしま しゅう	長野県PTA連合会	令和元年度から令和2年度に掛けて、公益社団法人日本PTA全国協議会の役員として、全国のさまざまな事例や文科省からの情報をいち早くフィードバックするとともに、関東ブロックを始め、他県の課題解決にも積極的に関わり、長野県PTA連合会の素晴らしさを全国へ浸透させた。また、全国で「PTA脱退問題」や「PTA不要論」が叫ばれる中、在任中、長野県においてはすべての公立小中学校がPTA連合会に加盟し、そのトップとして3年間尽力した。
		大島 修	前会長	
61	長野県	くまがい ひろし	長野県PTA連合会	会長職として最も大変だったコロナ禍の3年間を務めた。常に子どもたちの笑顔のために、また地域の発展のために寄与することが、PTAとして大切であることから、会員の学びの充実にも力を入れ、時代と共に進化する「関わりやすい組織」「関わりがいのある活動」の研究を重ねて実施した。信州PTAモデルの構築にも尽力すると共に、全府連70周年記念式典の分科会で講師を務めるなど、全国的に見てもPTAの充実に貢献した。
		熊谷 弘	会長	
62	岐阜県	ふたむら まさる	岐阜県PTA連合会	単体PTA会長11年間、大垣市PTA連合会会長2年間、県PTA連合会会長2年間を含め、20年の長きにわたりPTA組織の要職に就き、PTA活動に尽力した。その貢献は、岐阜県にとどまらないといえる。温厚な人柄で、周囲を巻き込みながら楽しくPTA活動に取り組むことを大切に、連合会の継続的活動の推進につながった。役員及び会員からの信頼も厚く、組織の凝集力を高め信頼関係を構築することになり、余人をもって代えがたい存在である。
		二村 勝	元会長	
63	岐阜県	なかむら としのり	岐阜県PTA連合会	単体PTA会長3年間、岐阜地区PTA連合会会長1年間、岐阜県PTA連合会会長3年間(退任後は顧問として)を含め、9年間の長きにわたりPTA組織の要職に就き、PTA活動の発展に尽力した。冷静に現状を分析し、理論に基づいた素早い判断力を有しているため、役員及び会員からの信頼が厚かった。会員の意見・声に耳を傾け、先を見通して行動に移すことができ、安定した団体の運営を行った。
		中村 敏徳	元会長	
64	静岡県	いまい わたる	静岡県PTA連絡協議会	明朗な人柄で人望が厚く、持ち前の積極性と行動力、リーダーシップを発揮して組織のムードメーカーとなり、充実したPTA活動の推進に尽力した。また、日本PTA全国協議会や関東ブロックPTA協議会においても情報収集や発信を積極的に行い、広い視野でのPTA運営を目指して取り組んだ。学校との関係においては、管理職並びに教職員との意思疎通を大切に、「協働」につなげる円滑な協力関係を構築した。
		今井 亘	元会長	
65	静岡県	いまがま しんや	静岡県PTA連絡協議会	温厚な人柄で人望が厚く、リーダーとしての統率力も備えており、静岡県PTA連絡協議会会長としての任を立派に果たし、家庭教育力の向上をめざした研究運営組織を確立した。コロナ禍における活動に際しても、柔軟かつ的確な判断で円滑に推進することができた。市・県・関東・全国のPTA活動振興においても広い視野に立ち、未来を見据えた経営を実施して、組織活性化に貢献した。静岡県社会教育委員としても保護者の視点に立ち、子どもの健全育成に貢献した。
		今釜 伸也	元会長	
66	静岡県	てらかわ ちえ	静岡県PTA連絡協議会	明るく優しい人柄で、誰に対してもこやかに接し、大変人望が厚く、組織同士のパイプ役としても大きな役割を果たしている。また、行事等の立案、運営に際しては、シンプルでわかりやすい指示と綿密な計画により組織をまとめる力がある。突破力と丁寧さを併せ持っており、何かと課題が多いPTA活動推進のために、今後も大いに期待できる人材である。
		寺川 千恵	元 副会長	
67	愛知県	あおき けいすけ	愛知県小中学校PTA連絡協議会	PTAの立場で、子どもたちにできることを常に考えながら、活動を推進させた。海部地区で起きた生徒間の事件は、社会に大きな影響を与えたが、「自分ごと」として事件を捉え、報道の自粛を求めたり、スクールソーシャルワーカーの配置を依頼したりするなど、自分の信念をもって取り組んだ。社会的なニーズに合わせて、会則を変更した点においても、社会情勢を敏感に受け止め、自らの活動においてできることを実践した功績の一つである。決められた枠の中で活動するのではなく、常に見据えていたのは社会情勢であり、自分にできることを常に考えながら活動に発展させ、PTA活動の充実、子供たちの健全育成に大きく寄与した。
		青木 啓祐	前会長	
68	愛知県	まつい ひろと	第74回日本PTA東海北陸ブロック研究大会愛知大会	豊富なアイデアと強いリーダーシップで南中学校PTA活動の原動力となった。PTAは生徒のため、学校のために尽力するというポリシーがPTA役員、会員にまで浸透した。これにより見ているだけ知っているだけの活動から、生徒を助ける活動・保護者が楽しむ活動への変革が行われた。愛知県PTA連絡協議会の会長として、組織運営面に関する課題を検討した。そのうえで、役員と経費に関する会則及び細則の一部を改正し、運営改善に努めた。また、愛知県都市教育長協議会、愛知県小中学校長会等の関係諸団体とともに、愛知県の教育予算充実のために、愛知県知事に対して陳情を行った。愛知県教育委員会管轄の諸委員会に参画し、関係諸機関と連携を深め、県内全域の児童生徒の健全な育成に寄与した。
		松井 寛人	大会長	
69	愛知県	しみず けいすけ	日本PTA全国協議会	平成29年度より名古屋市立小中学校PTA協議会会長として、指導力、判断力に優れ、名古屋市全体のPTA活動の活性化に尽力した。会長として各種団体等から数多くの役職を委嘱されたが、その職務に対してもPTAの立場から建設的、かつ積極的に取り組み、PTA活動の発展に寄与した。平成30年から日本PTA全国協議会理事・専務理事・会長を歴任し、全国を飛び回り、全国のPTA活動の充実、関係団体との連携に努め、行政機関への働きかけなど、全国的なPTA活動に尽力した功績は大きく、特筆に値する。
		清水 敬介	元会長	
70	愛知県	きとう けいすけ	名古屋市立小中学校PTA協議会	平成31年度から3年間は名古屋市立新郊中学校PTA副会長・会長を務め、PTA活動の充実・発展に尽力した。さらに、平成29年度から、名古屋市立小中学校PTA協議会副会長・会長を歴任し、リーダーシップを発揮しながら、広い視野でPTA活動の活性化や子どもたちの健全育成に大いに貢献した。特に、「コロナ禍の今こそ改革のチャンス」として、活動の中止ありきではなく、関わる人が関わりやす形を考え、主体的なPTA活動のあり方を目指して取り組み続けた、その功績は甚大である。
		鬼頭 恵助	前会長	
71	愛知県	すぎやま ひろみ	愛知県特別支援学校PTA連絡協議会	本校の過大化解消のため、学校の規模が約半分となる時期に、PTAの役職を歴任し、さらにコロナ禍の中でPTA活動の制限を余儀なくされる中で、単に活動を中止するのではなく、「できる方法」を模索した。また、「PTA会員一人一人が、できる範囲で役割分担し、お互いに助け合う」ことを行動指針として掲げることで、持続的かつ参加しやすい、これからPTA活動の在り方を示した。とくに、子供たちや保護者の現状を的確に把握し、PTA活動の基本理念である「子供の教育と福祉の増進」のために必要なことを、リーダーシップを発揮してPTA活動に反映させることができた。こうした信念のもと、令和4年度愛知県特別支援学校PTA連絡協議会会長としても、役割を果たすことができた。
		杉山 裕美	前会長	

No	都道府県	氏名	主要PTA経歴	主な功績
72	三重県	まつやま やすとし	三重県PTA連合会	会長在任期間は3年間であったが、三重県内の研修・交流事業を幅広く行ったことに加え、任期中に7年毎に6県1市で持ち回り開催の日本PTA東海北陸ブロック研究大会が三重県で開催された。東海北陸ブロック研究大会では教育のみならず三重県の伝統文化の魅力と未来への継承を来場者にPRするために三重県および津市観光協会の協力を得て「津しゃご馬」「唐人踊」「津高虎太鼓」を学ぶ子どもたちが参加し好評を博した。開催県の会長として6分科会および全体会を統括し、三重県のみならず参加県市の会員の資質向上および交流に多大なる貢献があった。
		松山 安利	元会長	
73	三重県	みのう まつのり	三重県PTA連合会	就任直後に新型コロナウイルス感染症の感染拡大により緊急事態宣言が発出されるなど、教育環境においてはもとよりPTA活動にとっても活動することすら危ぶまれる非常に難しい時期であった、そのような状況であっても県のPTAだからこそのことを模索し、特に人権問題と子どもたちを元気づけることに力を注いだ1年間の在任期間であった。また、三重県PTA連合会創立70周年の年にあたり、地方テレビ局において、創立70周年記念特別番組を制作し放映することにより、多くの会員に活動の紹介と啓発を行った。過去に例のない教育環境や学びの機会を失する危機に際して子どもたちに不利益が出ないように三重県PTAを率いて類まれなるリーダーシップを発揮したことは評価に値する。
		美濃 松謙	元会長	
74	京都府	ほりい ひろし	日本PTA全国協議会	京都府PTA協議会において、会長、副会長、近畿ブロックPTA協議会において代表、理事、また日本PTA全国協議会において常任幹事を歴任するなど、京都府外でもリーダーシップを発揮し、PTA活動の活性化に尽力した。特に、「第38回日本PTA近畿ブロック研究大会京都大会」「第60回日本PTA全国研究大会京都大会」に向け、京都府内PTA会員の意識向上を図るため、府内各地で行われる研修会等を利用し、PTAの役割についての研修会や、PR活動を計画的に行う等、大会成功の礎を作った。
		堀井 裕司	元常任幹事	
75	京都府	あずま のりひこ	第38回日本PTA 近畿ブロック研究大会京都大会	京都府PTA連合会の会長、近畿ブロックPTA協議会会長、日本PTA全国協議会副会長として組織の活性化を意識し、事業の充実・発展を見据え活動した。大会会長として大会を成功に導いた第38回日本PTA近畿ブロック研究大会京都大会では、様々な関係者と連絡調整を図り、他の役員等との協議検討を繰り返しながら近畿ブロックPTA協議会をまとめ、準備を進める等、近畿地区のPTA活動の推進と躍進に尽力した。その後は、それらの経験を後身に伝えるべく常任顧問としても活躍した。
		東 憲彦	大会会長	
76	京都府	かなまる こういち	第60回日本PTA全国研究大会 京都大会	京都府PTA協議会の副会長兼家庭教育委員長として、第38回日本PTA近畿ブロック研究大会京都大会において、京都府の家庭教育力を高める取組の一つである「親のための応援塾」をテーマにした実践発表を行い、他府県PTA会員との意見交換を活発に行った。また、京都府で初開催の、第60回日本PTA全国研究大会京都大会では、実行委員長として運営組織全体を統括し大会を成功に導く等、本府PTA活動の振興に大きく寄与した。PTAでの経験を活かし宇治市教育委員を歴任され、現在は学校運営協議会会長として活躍している。
		金丸 公一	実行委員長	
77	京都府	しんや ただひろ	京都市PTA連絡協議会	京都市PTA連絡協議会会長をはじめ、京都市小学校PTA連絡協議会会長、京都市立中学校PTA連絡協議会副会長など、京都市全体のPTA活動を推進する要職を務めた。京都市PTA連絡協議会会長、京都市小学校PTA連絡協議会会長の時代には、家庭教育の重要性を全市の保護者に対して発信し、子どもたちのインターネットトラブルをはじめとする喫緊の教育課題に対する保護者の意識向上に大きく貢献した。また、自身の本業である司法書士の経験を生かした活動を推進し、法規の観点から各PTA会長等に助言を行ったり、個人情報保護をテーマとしたPTA研修会の講師を自ら務めたりするなど、縁の下の力持ちとして法律的側面から全市のPTA活動を支えた。
		新家 忠弘	元会長	
78	京都府	くぼかわ よしひろ	京都市PTA連絡協議会	小学校、中学校における永年のPTA活動の中で、京都市PTA連絡協議会会長をはじめ、京都市小学校PTA連絡協議会会長や京都市立中学校PTA連絡協議会会長など、京都市全体のPTA活動を推進する要職を務めた。京都市PTA連絡協議会会長としては、親同士、地域や学校とのつながりの重要性の発信に尽力し、京都市が進める学校・保護者・地域が一体となった教育の推進に大きく寄与した。また、所属する学校の地域生徒指導連絡協議会ではPTAの代表として学校と地域の橋渡しに活躍するなど、地域ぐるみの教育の発展に多大の貢献をした。
		久保川 芳弘	元会長	
79	大阪府	なむら けんじろう	大阪府PTA協議会	大阪府PTA協議会で3年間、会長を務める中、第一に、大阪府下のPTAがより円滑・充実した活動ができるよう規約改正や制度改正や新制度確立などに積極的に取り組んだ。第二に、会員相互とのコミュニケーションに時間をかけ円滑な情報伝達や相談をしやすい環境を創出して組織の強化に貢献した。第三に、PTAに関わることの意義や楽しさの周知につとめPTAに対するモチベーションの向上に貢献した。
		名村 研二郎	元会長	
80	大阪府	やすだ ゆき	大阪府PTA協議会	単P、町P、府Pを通して、PTA組織の運営や行事等の推進に前向きに楽しみながら取り組んだ。府内外の研修会や防災施設の見学に積極的に参加することを通して役員としての見識を深めるとともに自身のPTA活動の充実を図った。また、府Pにおいては、役員として円滑な組織運営に尽力したほか、近畿ブロックPTA協議会では2年間理事を務め、近畿ブロックPTA研究大会の運営委員を経験しながら組織の運営充実と発展に尽力した。
		安田 友紀	元副会長兼会長代行	
81	大阪府	かわかみ くみこ	大阪府PTA協議会	PTAへの関心を高め、子ども達や学校への関わりを強化するため、少しでもPTAへの敷居を低くし、楽しそう、やってもいいかもと感じてもらえるよう工夫に努めた。府Pでは、地域のため、子どもたちのために前向きに楽しく活動する仲間づくりを行った。活発かつ前向きに行動し、ムードメーカー的な役割を十分に果たし、活動をリードした。
		川上 久美子	元副会長兼会長代行	
82	大阪府	まつやま のぶしげ	大阪市PTA協議会	長年にわたり、学校PTA・東淀川区PTA協議会・大阪市PTA協議会・公社日本PTA全国協議会に関わりそれぞれの会長や委員長を歴任してきた。また、大阪市の市民表彰を受け、地域諸団体の役員も務めてきた。教育的諸課題の解決に向け、実態把握や関係団体の連携を大切にし、人望・経験を基に大きな成果を上げてきた。また、各組織づくりにも携わり、人材育成や後継者づくりに尽力し、各組織の充実・発展を成し遂げてきた。現在は、大阪市PTA協議会の相談役、東淀川区PTA協議会の顧問、地域の諸団体の役員を兼ね、豊富な実践に基づく識見と卓越したリーダーシップをもって、教育施策の充実および地域の発展に貢献している功績は誠に多大であり、今後も期待できる人材である。
		松山 信繁	相談役	
83	大阪府	こばやし よしたか	大阪市PTA協議会	長年に渡り、学校PTA・西区PTA協議会・大阪市PTA協議会・公社日本PTA全国協議会に関わりそれぞれの会長や代表委員を歴任し、地域諸団体の役員も務めてきた。その間、教育的諸課題の解決に向け、実態把握や関係団体の連携を大切にし、大阪市の教育の発展に寄与し、ひいては子どもたちの健全育成を大きく前進させた。大阪市PTA協議会と大阪市教育委員会共催の国際交流事業の団長として中学生をオーストラリアに引率し多大の成果を取めた。また、各組織づくりにも携わり、歴代の会長とも連携し、人材育成や後継者づくりに尽力し、各組織の充実・発展を成し遂げてきた。現在は、大阪市PTA協議会の相談役、西区PTA協議会の相談役、地域の諸団体の役員を兼ね、豊富な実践に基づく識見と卓越したリーダーシップをもって、教育施策の充実および地域の発展に貢献している功績は多大である。
		小林 良堂	相談役	

No	都道府県	氏名	主要PTA経歴	主な功績
84	大阪府	うえき あきら	堺市PTA協議会	共働き世帯や少子高齢化が進み、PTAの担い手不足による新任役員の選出問題や、SNS等によるPTA批判拡散の影響、また新型コロナウイルス感染症による活動の制約など、実際の活動以上に見えないストレスを抱えて役員をしている方が多いなか、PTA役員の負担を軽減するとともに、楽しく活動ができるよう改善に取り組んできた。新任役員の不安に寄り添うためマニュアルを配付し、かねてから要望のあったソフトバレーボール交流会を開催するなど、役員や会員が活動に参加しやすい環境づくりに貢献した。また、新型コロナウイルス感染症がまん延した令和2年度においては、感染拡大防止の観点から活動の制約が求められる中、総会を書面開催するとともに、会員に対して会費納入を要しない議決を得るなど、適切な対応を行った。
		植木 聡	元会長	
85	大阪府	はんだ たくみ	大阪府立支援学校PTA協議会	過去3年間の生野支援学校PTAの活動においては、学校とも十分な連携を図り、諸活動が円滑に行えるように調整を進めた。特にコロナ禍においては、制限が生じ、諸活動が思うように進められない中ではあったが、安全を第一に考え、オンラインを活用しての会議や研修を企画してきた。また、府立支援学校PTA協議会においては、副会長、会長を歴任し各校の会長間の連携を豊かにして、意見の出しやすい環境を醸成した。大阪府との懇談会などでは各校からの悩みや課題点を的確に伝え、各校会長の思いを声にして熱く伝えることに努めた。
		半田 工	会長	
86	兵庫県	かさだ あきお	兵庫県私立幼稚園PTA連合会	長期にわたり、兵庫県私立幼稚園PTA連合会会長を務め、PTA全国組織との連携強化に尽力するとともに、一般社団法人私立幼稚園協会と提携・協力し、私立幼稚園教育の振興に大きく貢献した。PTA大会では、企画・立案を中心となって行い、家庭教育支援活動に貢献した。また、全園に配置されている「キンダーカウンセラー」導入に尽力し、保護者の育児不安に配慮しながら、地域の教育・保育の質の向上に大きく寄与した。
		笠田 昭雄	前会長	
87	兵庫県	こばやし けいいちろう	姫路市連合PTA協議会	姫路市連合PTA協議会として、「PTAあり方検討委員会」を立ち上げ、PTA紹介動画の作成、入退会届の取り扱いの指針を示す等、PTA活動の啓発に尽力した。不登校についての研修会を開催することで、保護者に寄り添った学びの場を提供し、PTA活動の充実に貢献した。また、姫路市連合PTA協議会に寄せられる意見に迅速に対応し、関係各所と情報の共有を図る等、高いリーダーシップを発揮した。
		小林 圭一郎	会長	
88	兵庫県	かじ ゆきお	神戸市PTA協議会	神戸市PTA協議会の会長として、各種研修会の企画・立案を行い、時節に応じたテーマを設定し学びの場を提供するとともに、各単位PTAによる積極的な実践活動に助言等を行い学びを深めた。子どもたちの居場所づくり事業を通じて、地域福祉センター等を活用した学習支援事業を開催し、子どもたちの学びの環境整備に努めた。また、近畿ブロックPTA協議会会長として、府県や政令市PTA協議会の連携強化に尽力した。
		加地 幸夫	元会長	
89	奈良県	きた ようぞう	奈良県PTA協議会	自ら各市町村を回り、各市町村教育長と対談し、その内容を奈良県PTA協議会広報紙に掲載するなど、精力的に奈良県PTA協議会会長としての任を務められた。また、奈良県PTA協議会だけではなく、自身の地元である単位PTAや町・郡PTAの会長を務められるなど、県内PTA活動に多大な貢献を果たすと同時に、PTA活動を生涯活動として位置づけられ取り組まれていることに、多くの方が敬意を表されている。また、現在も指導的役割を果たされ、奈良県の就学前から高等学校の子どもたちの教育活動改善に向け、引き続き尽力されている。
		喜多 洋三	元会長	
90	奈良県	まえかわ しんご	奈良県PTA協議会	奈良県PTA協議会副会長及び理事として、県内PTA活動に多大な貢献を果たすと同時に、橿原市PTA連合会会長として、奈良県PTA協議会と市PTA連合会とのパイプ役となり、橿原市PTA連合会の発展にも寄与した。とりわけ、県内PTA関係者との連携強化に貢献するとともに、指導的役割を果たした。
		前川 真吾	元副会長	
91	和歌山県	ますだ みつる	和歌山県PTA連合会	令和2年から現在に至るまで、和歌山県PTA連合会の会長として誠実な姿勢で物事に取り組む姿は多くの会員から賛同や支持を得ている。常に前向きに考え、積極的に行動し、既存の活動においてもより良い活動となるよう日々考えている。他団体との交流・連携を積極的に行うとともに、明るく楽しい魅力あるPTA活動を推進した功績は大きいものである。また、PTA活動以外にも県の各種委員等を歴任し、地域社会の発展のため広範囲にわたって活躍してきた功績は大きなものである。
		増田 満	会長	
92	和歌山県	まえだ りゆういち	和歌山県PTA連合会	和歌山市小学校PTA連合会会長として様々な行事計画や運営に携わり、中心的な存在として連合会を牽引した力を和歌山県PTA連合会会長に就任してからも子供たちの健全育成のために会員の研修を重視し、近畿各府県での研修会の取組を参考にし、防災教育に力を入れた取組を行った。研修会での講師を自ら交渉するなど、「学ぶ」PTAの実現に尽力した。また、子供たちの健全育成のために、様々な機関や団体、関係者と連携し、事業の展開を図った。常に子供たちの教育課題を解決するためにPTAとして何ができるかを追究し続け、意欲的に事業展開を図り組織改革を行った功績は大きい。
		前田 隆一	元会長	
93	鳥取県	まつおか ともや	鳥取県PTA協議会	所属する小学校・中学校PTAで会長・副会長を通算5年間務め、PTAと地域・学校とのパイプ役として、PTA活動の充実と活性化に尽力した。児童、保護者、地域からの信頼も厚く、地域の各種役員の重責も担ってきた。鳥取県PTA協議会会長としても、会の役割を常に考え、それを役員に説き、県PTA協議会としてできる事を模索してきた。また、常に情報の収集に努め、広い視点から物事を的確に判断し、子どもたちのよりよい生活環境を整えるために、保護者代表としての立場で発言し、貢献した。さらに、日本PTA全国協議会中国ブロック協議会会長として、中国ブロックの会の運営、活性化に努め、令和4年度中国ブロック研究大会くらし大会の成功に貢献した。
		松岡 智也	会長	
94	島根県	ささき いさお	日本PTA 全国協議会	12年間に渡り、学校PTA、市PTA連合会、県PTA連合会の役員を務め、島根県のPTA活動の活性化に尽力してきたことは、大きな足跡を島根県のPTA活動に残した。地域や学校などのPTA会員からの人望も厚く、PTAへの功績も多大なるものがある。
		佐々木 功	元理事	
95	島根県	はら かんじ	島根県PTA 連合会	島根県PTA連合会の会長職を4年間務め、多大な功績を残した。特にIT関係のPTA活動への取り組みや、ホームページの刷新など、時代に即したPTA活動への移行に大きな役割を果たした。PTA活動に対するの支援や協力を行政サイドに訴える力も大きく、推薦者として相応しいと考える。
		原 完次	元会長	



No	都道府県	氏名	主要PTA経歴	主な功績
96	岡山県	こさか こういち	岡山市PTA協議会	共働き世帯が増えて、親子の時間もなかなか取れなくなっていることを課題として捉え、子どもたちが楽しめる新しいイベントの開催や、従来行ってきたイベントの更なる充実に取り組んでいる。11年間、毎朝の登校時に付き添い、学校門で毎朝あいさつ活動を行っており、子どもたちのやりたいことが何なのか、興味はどこにあるのかを一番近くで把握するようにしている。
		小坂 耕一	副会長	
97	岡山県	おだ ゆうぞう	倉敷市PTA連合会	長年にわたり単位PTAでは、PTA会長や副会長として、子どもの健やかな成長と学校・保護者・地域が連携したPTA活動の充実を目指し、中心的存在となって計画・運営に携わっている。更にこの3年間は、倉敷市PTA連合会の会長・副会長・顧問としてリーダーシップを發揮しながら、「単位PTAへの応援団」として何が出来るか、何が必要とされているかという視点で活動を考え、事業の見直しや役員の人数削減など改革に尽力するとともに、「任意加入」という新たな課題に対して単位PTAが相談しやすく、また単位PTAからの相談に迅速に対応できるように、PTA会長のライングループや対応マニュアル、PTA活動紹介リーフレットなどを作り、環境を整えた。新型コロナウイルス感染症の影響下での運営は、今までにはなかった苦労や難しさを伴ったが、常に明るくユーモアに溢れ、周囲からの厚い信頼を得て臨機応変に対応した。
		小田 祐三	元会長	
98	岡山県	かんだ としかず	岡山県PTA連合会	県の代表として、全国や県内における様々な会議等に参加し、教育環境・PTAの動向についての情報収集をして、常任委員会等で情報提供と課題共有を行い、郡市P連や単位PTA活動の更なる発展と充実に寄与した。県P連の組織維持に向け、また時代に合った活動にシフトするため、各郡市の意見を吸い上げ、組織体制も含めた改善の実践に会長としてリーダーシップを發揮している。長年に渡り要職を歴任し、労を惜しまず真摯な姿勢で何事にも取り組み、県内だけでなく全国からの人望も厚くPTA間の連携に多大な功績を残している。
		神田 敏和	会長	
99	岡山県	もり けいこ	岡山県立岡山西支援学校PTA	多年にわたりPTA会長として、本校の児童生徒、及び教職員のことを常に気遣い、保護者間のコミュニケーションを積極的に図り、関係強化に広く尽力した。また、新型コロナウイルス感染症対策でいろいろな行事が規模縮小する中、教職員と連携を図りながら、どのようにPTA活動を展開していくか模索し、中心となって活動を進めた。さらに、本校のみならず岡山県内の特別支援学校PTA役員とも積極的に連携を図り、特別支援学校の教育環境の改善に大きく寄与した。
		森 慶子	会長	
100	広島県	やまだ ようこ	広島県PTA連合会	組織全体の雰囲気を変え、動き、改革する組織に向けて、強力なリーダーシップを發揮した。県P連においても、公益社団法人日本PTA全国協議会においても、積極的に自分の意見を主張し、まさに「変革」の必要性を常に訴え続けた。その主張を実現するための活動(研修会の在り方、広報の在り方等)を自らが率先して行い、多くの賛同者を得た。
		山田 洋子	元副会長	
101	広島県	かくだ ゆう	広島市立幟町小学校PTA	広島市立幟町小学校PTA副会長及び会長としての6年間、常にPTA組織の整備・充実及び運営の改善に努めた。特に会長としての3年間は、共働きの家庭も増える中、保護者の負担軽減を念頭に置き、活動の見直しを図ることで、全保護者がPTA活動に協力しやすい組織づくりを行った。さらに、会長としての最後の年度(令和4年度)には、幟町小学校創立150周年記念事業を実行委員長として成功させるなど、その功績は功労者表彰に値するものとする。
		角田 優	会長	
102	広島県	ふじい ひろひさ	福山市PTA連合会	PTAの本質を第一義とした指針を持って組織を運営し、引き継ぐことの重要さと同時に、時代に合わせて組織を変化させることに重点を置いて活動した。人との繋がりを大切に様々な協力を得て、子どもたちの為に多くの活動を企画立案して実施した。福山市PTA連合会会長として、消毒液寄贈やWEB研修会、花火イベント開催等、活動を止めることなく実施した。また、組織改革やHP開設も計画的に行い3年間で新しいPTAの形を役員と一緒に作り上げ、PTA組織の成長・発展に尽力した。
		藤井 裕久	会長	
103	広島県	どうじょう しゅんじ	福山市PTA連合会	福山市立川口小学校PTAでは、会計1年、筆頭副会長1年、会長4年を歴任し、PTA役員負担軽減や男性部の新設等PTA組織改革を行ってきた。福山市PTA連合会においても、副会長2年、会長1年、顧問1年、幹事2年を歴任し、教育委員会への要望活動や、保護者・教員の為になる講演会を実施するなど、子供達の為になる活動に尽力してきた。
		道城 俊二	前会長	
104	広島県	おおつか さちえ	福山市PTA連合会	福山市立幸千中学校PTA会長を4年、副会長を2年務め、子供たちの安心安全のため、地域活動、会議などにも積極的に参加し、地域との連携を深めた。また、役員選出や活動がスムーズにできるよう声掛け等工夫し多くの保護者、教員、生徒とのコミュニケーションを深め活動しやすい内容と環境を整えた。福山市PTA連合会 会長1年、副会長2年を務め、組織の和を深めた。広島県PTA連合会 会長1年、副会長1年、理事1年を務め、組織の充実、子供たちの安心安全にかかわる活動に貢献した。
		大塚 佐知恵	元会長	
105	山口県	かわさき ゆみ	山口県PTA連合会	山口県PTA連合会において9年間という長期にわたり役員を務め、女性会長という大役を果たした。令和元年度、2年度の会長期間において、今まで経験のないコロナ禍でのPTA活動を推進し、教育の発展並びに児童の健全育成のために貢献した。様々な行動制限の中でも活動を止めることなく、新しいスタイルでのPTA活動を女性の視点を活かし、一人一人の会員の気持ちに寄り添いながら約10万人の組織運営を行った。また、山口県青少年育成県民会議、山口県教育振興推進会議など山口県PTA連合会を代表して積極的に関わった。
		川崎 裕美	前会長	
106	山口県	まつなが ひではる	山口県PTA連合会	令和3年度、4年度には県PTA連合会の会長を務め、今まで経験のないコロナ禍でのPTA活動を推進し、教育の発展並びに児童の健全育成のために貢献した。リーダーシップを發揮して、PTA組織の運営や行事等の推進に尽力した。特に、山口県PTA連合会の会長として、積極的に様々な会議に参加し、役員としての見識を深めるとともに、他の役員の見解をまとめ、活動の充実を図った。また、県内のみならず市内や学校区のPTAや関係機関などともしっかりと連携し、山口県PTA連合会での経験を存分に活かし活動した。
		松永 英治	会長	
107	山口県	よしたけ かつじ	山口県PTA連合会	社会環境が大きく変化の中でのPTAの在り方を構築すべく自ら率先して活動に取り組み、県内PTAの所属する組織運営の円滑化につなげた。平成29年度、30年度には県PTA連合会の会長を務め、PTA活動を推進し、教育の発展並びに児童の健全育成のために貢献した。山口県PTA連合会会長として、様々な会議に積極的に参加した。さらに、中国ブロック協議会会長、副会長として、日本PTA全国協議会代表、中国ブロック代表として意見を伝えられ山口県の代表としての職務を全うした。
		吉武 克治	元会長	

No	都道府県	氏名	主要PTA経歴	主な功績
108	徳島県	さとう ひさかず	松茂小学校PTA	単P連の会長を6年間務め、また徳島県・板野郡のPTA組織の重職を担ってきた。本校のPTA活動ばかりでなく、町内・郡内の小・中学校のPTAと連携を図り、長きにわたってPTA活動に多大な貢献をしてきた。近年多くのPTA組織が抱えている課題に対しても、PTA活動における会員相互の理解を促進し、学校と家庭との連携の重要性を説き、学校と家庭との役割を明確にすることでよりよい子どもたちの成長を支えていく意識の高揚に貢献した。また、コロナ禍明けの学校状況を鑑み、リーダーシップを発揮し、様々な新しい活動を導入するなど、広い視点に基づいたPTAの振興・発展に尽力してきた。特に町内の小・中学校のPTAの球技大会では、親と子どもが楽しく参加できる企画に変更し、町PTAの活性化の面でも功績は多大なものがある。人望も厚く、人格識見ともに優れている。
		佐藤 央一	会長	
109	香川県	もりもと たくや	香川県PTA連絡協議会	長年にわたりPTA役員としてリーダーシップを発揮し、組織運営・事業推進に努め、学校・家庭・地域の連携を深めてPTA活動の充実と活性化に尽力した。県P連会長として円滑な組織運営をめざし、会則や規程、会計の見直しと整備に力を入れた。
		森本 卓也	元会長	
110	香川県	なおい しげき	香川県PTA連絡協議会	長年にわたりPTA役員としてリーダーシップを発揮し、組織運営・事業推進に努め、学校・家庭・地域の連携を深めてPTA活動の充実と活性化に尽力した。平成27年度と令和元年度に開催した「日本PTA四国ブロック研究大会香川大会」でリーダーシップを発揮し、実行委員会をまとめ大会を成功に導き会員の意識向上に貢献した。
		直井 茂貴	元会長	
111	愛媛県	まつしま ようこ	愛媛県PTA連合会	宇和島市PTA連合会初の女性会長として、細やかな気配りで明るく風通しのよいPTAの環境づくりに努めるとともに、特に防災事業の企画・運営に尽力し、地域を巻き込みながら会員や子どもたちの防災意識の向上に貢献した。また、愛媛県PTA連合会では、通算4年間にわたって副会長を務め、県全体のPTA活動の充実・振興に寄与した。
		松島 陽子	元副会長	
112	愛媛県	いっしき まさと	愛媛県PTA連合会	西条市PTA連合会では、11年間という長きにわたって会長や副会長等を歴任し、情報モラル研修や自然体験活動等の事業を通して会員相互の多様な学びを支えるとともに、子どもたちの健全育成に尽力した。また、愛媛県PTA連合会では、会計理事として適正な組織運営や事業の推進・改善に尽力した。
		一色 政人	元会計理事	
113	愛媛県	みやざき めぐみ	愛媛県PTA連合会	四国中央市PTA連合会の副会長を5年間にわたり務め、組織体制や活動内容を見直し、時代に合った組織運営に努めた。また、人権問題や防災等に関する研修機会の充実を図るとともに、愛媛県PTA連合会では、4年間にわたって副会長を務め、学校・家庭・地域が連携したPTA活動の推進に貢献した。
		宮崎 恵	元副会長	
114	高知県	たけなか としふみ	高知県小中学校PTA連合会	単位PTAはもとより、高知県小中学校PTA連合会会長として、家庭教育の重要性や教育環境の整備充実、学校教育に対する協力体制の確立に努め、高知県におけるPTA活動に大きな活力を与えた功績は多大である。
		竹中 利文	元会長	
115	福岡県	ながはら じょうたろう	福岡県PTA連合会	平成27年度から、地元の小学校の会長就任以来、福岡県PTA連合会のブロック会長を、また、副会長を2年経たのち、会長に3年間就任した。この間、福岡県PTA連合会の組織強化は当然ながら、単Pの組織力・各家庭の教育力の向上に情熱を注がれた。保護者の親力を強化するために、各種の研修会に積極的に参加を促進し、家庭・学校・地域の連携強化に力を注いだ。
		永原 譲太郎	前会長	
116	福岡県	こもり りか	一般社団法人北九州市PTA協議会	人間としての包容力と優しさを持ち、組織が機能する人間関係づくりに責任をもってあたり、多くの役員の信頼を集め、何事に対しても根気強く取り組んできた。また、PTA役員としての職務遂行に対する計画性と実行性を持ち合わせている。信念は、「子どものために」という考えの下に、PTA役員が一つとなり、地域や学校とも協力し、三つが一体となって活動しなければならぬと考え、自らの後ろ姿でその姿勢を示してきた人物である。
		古森 利香	副会長	
117	福岡県	り がくしょう	一般社団法人北九州市PTA協議会	人間的包容力と職務遂行に対する計画性と熱意、そして優しさを持ち、組織が機能する人間関係づくりに責任をもってあたった。その姿勢が多くの役員の信頼と尊敬を集めた。責任感が強く何事に対しても根気強く、PTAは「子どものために」という信念の下に、家庭と地域が一体となって協力しなければならぬと考え、「子どものために協力と努力を惜しまず」をモットーに活動を行ってきている人物である。
		李 学昌	常務理事	
118	福岡県	にしむら さなえ	福岡市PTA協議会	10年以上に渡って福岡市PTA協議会に携わり、会員として、また委員・理事・副会長・会長として、児童・生徒等が安全で安心して学べる学校となるように、また地域と連携して、児童・生徒、保護者、地域住民が自分の住む地域に誇りを持ち、心地良く生活出来るように積極的に活動を計画し実施した。また、今も地域で継続的に活動を行っている。令和元年度の福岡市PTA協議会会長として、コロナ禍においての活動をスムーズに行えるように、いち早くオンラインを活用した会員の研修や会議を提案し、実施するなどPTA活動の組織や活動の見直しを行い、改善を図った。
		西村 早苗	元会長	
119	福岡県	にしかた しゅんじ	福岡市PTA協議会	福岡市PTA協議会会長として、PTAの強制加入に関する問題がマスメディアや社会で物議を醸していた中、その課題解決の為に取り組んだ。まず特別委員会を新設し、アンケートによる様々な意見や、法的根拠も取り入れて「ガイドライン」を作成したことは画期的な事であり、その「ガイドライン」を基に各会員に説明会を開催し、理解・浸透を図った。現在も、当協議会だけではなく他都市や他府県のPTA会員が抱える課題解決の指針となっている。
		西方 俊司	元会長	

No	都道府県	氏名	主要PTA経歴	主な功績
120	長崎県	やまもと みちお	長崎県PTA連合会	長崎県PTA連合会の会長を4年間務め、コロナ禍において通常の活動が困難な中で、将来を見据えた改革案を組織的につくりあげた。この功績は大きく、現在もこの改革案に基づいた改革が進行中である。また、長崎大学教育学部の学生に「保護者とのかわり方」等、PTAに関する講義を行ったり、教員の初任者研修でPTA会長が話す機会を設けるように県教育委員会に働きかけるなど、教師と保護者との関係づくりに尽力し、教育環境の向上に努めた。
		山本 道雄	前会長	
121	長崎県	はまぞえ なおみ	長崎市PTA連合会	長崎市PTA連合会の会長として、連合会と教育委員会の潤滑な連携を図り児童生徒の教育環境がよりよいものとなるよう、両者の定例会開催や積極的な情報交換に努めた。また、PTAの在り方の見直し、組織や活動の精査を訴え、PTAの目的を意識しながら活動することの重要性を啓発し続けた。中学校のPTA会長としても、地域内の小学校やそのPTAとの連携の中心的な役割を担い、様々な行事の実施やPTA会員の意識向上に努めた。常に、地域の中で子どもを育てていくことを念頭に置き、どの活動にも誠意をもって取り組んだ。
		濱添 なおみ	元会長	
122	長崎県	もり ゆりこ	佐世保市PTA連合会	佐世保市PTA連合会において、本部役員の負担を軽減すべく、改革を行った。また、学校や地域との関わりを大切に、相互理解と連携を深めながら、大人が意識を変え、子どもを中心に、時代に合った関わり方を再構築していくことの大切さを啓発し続けた。母親目線を大事にしている母親部会の活動に積極的に取り組み、PTA活動の「目的」「意義」を意識した取組は多くの会員に受け入れられ、市P連母親部会主催の「チャリティーバザー」や「音楽祭」の取組は盛況を極めた。
		森 百合子	元会長	
123	熊本県	たうら かおり	熊本県PTA連合会	八代エリアの代表として単位PTAはもちろん、エリアをまとめるとともに熊本県PTA連合会の理事並びに副会長として運営に携わった。年間を通して多数ある関係機関との各種会合や教育関連会議に出席し、保護者としての意見を述べ、思いを届けた。本県教育の振興に大きく貢献した。的確な判断と意見、行動力により会の運営を支え、尽力した。
		田浦 かおり	元副会長	
124	熊本県	むらさき かずひで	熊本県PTA連合会	平成21年度以降、地元小学校の単位PTAでの役員から始まり、宇土・宇城地区PTA役員や熊本県PTA連合会役員を令和3年度まで長年務めてきた。特に平成29年度から令和2年度まで熊本県PTA連合会会長を通算4年務めた。平成30年度と令和元年度に九州ブロック協議会副会長を、令和2年には九州ブロック協議会 会長を務めるとともに、九州ブロックPTA研究大会くまもと大会会長として手腕を発揮した。さらに、令和3年度は九州ブロックPTA協議会相談役として側面から協議会の運営に尽力し、感謝状を授与されている。また、令和2年から3年にかけて日本PTA全国協議会の理事として表彰及び国内研修・国際交流推進室室長等の重責を果たした。
		村崎 一英	元会長	
125	熊本県	まつしま ゆういちろう	熊本市PTA協議会	13年間の長きにわたり、幾多の親と関わり、多くの先生方、また何百・何千人もの子どもたちと触れ合ってきた。関わった3校はPTA活動も和やかで活発である。校長先生をはじめ先生方との結びつきもすこぶるよい。まさに、PTAの存在意義を示すモデルとなるべき在りようである。学校が学校らしく、保護者が保護者らしく、そして地域が学校や人々を温かく包む、そんな日常のあたり前を作るPTAを目指してこられたのだ。市P協での7年間もまた大きな存在感を示された。
		松島 雄一郎	会長	
126	熊本県	ふじい ちあき	宇城市PTA連合会	宇城市PTA連合会会長及び宇城PTA連合会(宇城市、宇土市、美里町で構成)の会長を延べ3間務めるなどPTA活動に率先して取り組み、地域のPTA活動の活性化に大きく貢献した。
		藤井 千秋	前会長	
127	熊本県	いづか なおき	高森町立高森中学校PTA	連続で6年間、本校PTA役員として本校教育活動のために尽力した。特に令和2年から令和4年はPTA会長として、コロナ禍の中で柔軟性に富んだ活動に多く取り組み、本校のPTA活動が停滞することはなかったと言える。常に本校生徒と保護者のことを考え、様々な見方・考え方で実行する姿で、多くの会員の意識を向上させ、自粛自粛の中でも学校教育活動に寄り添い続けた。
		飯塚 直樹	前会長	
128	大分県	ひきだ けいじ	大分県PTA連合会	大分県PTA連合会の会長を初めとして、単P、市P連、日本PTA全国協議会の役職を歴任し、PTA活動を推進、発展させた。大分県PTA連合会会長を4年間歴任する中、PTA活動の活性化、子どもの健全育成のための他団体との連携協力、PTA組織の充実、事業活動の振興に多大な功績をあげた。特に、大分県PTA連合会「保護者心得六箇条」を一新し、県下全学校・家庭に配布し、「子育ての基盤は家庭にある」ことを強く認識させた。また、大分県の教育関係の諸審議委員等を歴任し、青少年の健全育成等、多くの課題解決に向けて貴重な提言を行い大分県教育の充実発展に大きく寄与した。平成30年度には、大分県PTA連合会創立70周年を迎え、過去10年間の活動を記録した記念誌を発行した。そのあゆみを伝えることで、次代を担う会員に継承することができ、今後の活動への指針を示した功績は大きい。
		疋田 啓二	元会長	
129	宮崎県	さいふ、 しげき	宮崎県PTA連合会	平成28年10月29日・30日に開催された「日本PTA九州ブロック研究大会みやざき大会」では、宮崎県PTA連合会の副会長として、企画・運営に携わり、指導力とリーダーシップを大いに発揮し大会を成功へと導いた。また、その後は、宮崎県PTA連合会の会長として、市郡PTA協議会との連携を図るとともに、行政や関係諸団体と協議・研究を行い、子ども達の健全育成とPTA会員の資質の向上及び本県教育のために尽力した。また、九州ブロックPTA協議会の理事として、「九州はひとつ」の合言葉のもと、リーダーシップを発揮し、九州地区のために活動した。
		西府 茂樹	元会長	
130	鹿児島県	いじち ひろのり	鹿児島県PTA連合会	永年にわたり、小学校から高等学校までの所属単位PTAの会長として、児童生徒の健全育成に向けた取組を会員とともに推進するとともに本県PTA会長、副会長として本県PTAの発展・充実に大きく貢献した。また、日本PTA全国協議会員及び全国高等学校PTA連合会役員として活躍するとともに、全国のPTAの情報をもとに本県PTAの活動の活性化に努めた。
		伊地知 紘徳	元会長	
131	鹿児島県	くろき あきこ	鹿児島県特別支援学校PTA連絡協議会	平成21年度から令和3年度までの長きにわたり特別支援学校のPTA活動に主体的に取り組み、障害のある子供がいる保護者間のネットワークの構築に尽力するとともに、市や県の小中学校等のPTA連合団体の活動にも参加し、特別支援学校保護者の立場から各方面に働きかけるなど、特別支援教育の推進にも多大な功績を上げている。
		黒木 亜希子	元役員	

No	都道府県	氏名	主要PTA経歴	主な功績
132	鹿児島県	とめの しんいち	始良市立蒲生小・中学校PTA	平成22年3月、3町が合併し、現在の始良市になったことに伴い、同年6月に3町PTA連絡協議会が対等合併し、始良市PTA連絡協議会が発足した。しかし、順風満帆な船出とは行かず、様々な課題を一つずつクリアにしていく状態が進んでいる中で、市PTA連絡協議会の副会長を3年間担った。蒲生地区での経験を生かして、他の単位PTAへのアドバイスや交流活動の潤滑油となるべく、率先して働いた。
		留野 真一	元会長	
133	沖縄県	みやぎ みつひで	沖縄県PTA連合会	単位PTAから地区PTA、県PTA連合会だけではなく高等学校PTA会長まで歴任し、多くの会員の人望の厚さがうかがえる。会長としても現在の家庭問題の解決に尽力し、また、関係団体との連携強化に努めた。その成果は現在の沖縄県PTA連合会の活動に活かされており、功績は大きいものがある。
		宮城 光秀	元会長	
134	沖縄県	しもじ いつこ	沖縄県PTA連合会	何事に於いても、自ら明るく前向きに積極的に取り組む姿勢は、他の会員への波及効果があったと思われる。周りをうまく取り込みながら、会員と共に考え、リードしPTA活動の周知と理解に努めた。会の運営に於いても、理事役員、事務局と連携を図りながら健全な運営と時代に合った事業運営の改善を進めた功績は大きい。小中PTAと兼任しながら、高校PTA役員も務め、小中と高校を繋ぐ役割も大きい。会長職退任後は、県連の安全委員会(共済部門)の専務として、規約の整備やコロナ禍の中でのオンライン研修会の企画運営等を行い途切れのない活動に尽力した。
		下地 イツ子	元会長	
135	沖縄県	こめす あやこ	沖縄県立森川特別支援学校PTA	平成25年度の入会以来永年にわたりPTA活動の充実、会員の意識向上に大きく貢献し、成果をおさめている。平成26年度の創立30周年から約10年。創立40周年を目前にしている中、この間に築いてきた教育活動、PTA活動を振り返ると同氏の功績は大きい。また、これらの功績に留まらず、別団体(沖縄県高等学校PTA連合会)に所属していた際の実績も多くあり、現在は『日本自閉症協会』から役員への推薦を受けているなど、多方面から厚い人望がある。
		米須 綾子	会長	